

## 令和3年度 埼玉県商店街経営実態調査報告書 概要版

## コロナ禍の商店街の経営実態

埼玉県マスコット  
「コバトン」

埼玉県では、地域商業の振興や商店街の活性化に役立てていただくことを目的に、おおむね5年ごとに『商店街経営実態調査』を行い、県内商店街の現状と課題を明らかにしています。このたび、県内の商店街関係者及び県民（消費者）の皆様にご協力いただき、令和3年度の調査結果を取りまとめました。

今回の調査では、従来の調査内容に加え、コロナ禍の商店街活動の変化や消費者行動の変化にも着目しました。また、商店街の皆様が直面している様々な課題に対してどのように向き合っていくべきか、そのヒントを発見していただけるよう、課題解決に向けた分析・考察を加えています。

商店街及び関係者の皆様には、自らの商店街と照らし合わせ、この調査結果を御活用いただけますと幸いです。

## ● 目次 ●

## テーマ ①

## コロナ禍の商店街の経営実態を見る

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大で7割の商店街が売上減少
- 消費者は混雑を避けて買物、商店街の利用頻度が減った人も

## テーマ ②

## 商店街と消費者の意識のギャップを知る

- 高齢者支援や食品ロス対策の実施など商店街への期待は高いが、商店街の取組は少数
- キャッシュレス決済でもギャップ、消費者の6割が利用するも商店街では足踏み

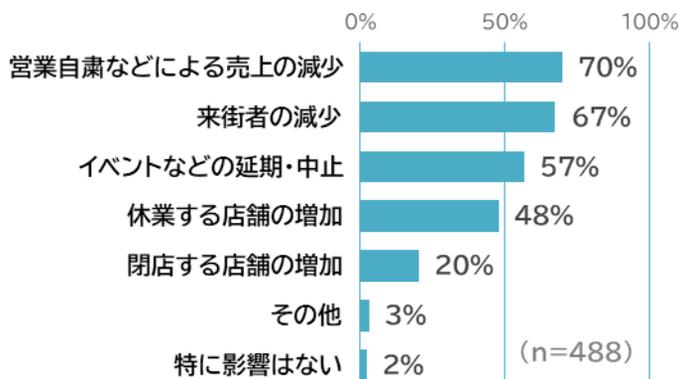
## テーマ ③

## これからの商店街のあり方を考える

- 景況感が急速に悪化、後継者不足が深刻
- 人手不足に悩む商店街は連携による活動も視野に

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、国民は外出自粛をはじめとする感染防止対策を要請されました。このような状況下で、商店街の経営実態はどのように変化したでしょうか。県内商店街及び県民を対象とするアンケートの結果をもとに、新型コロナウイルス感染症が商店街経営に与えた影響とコロナ禍における県内消費者の消費行動の変化をまとめました。

## 新型コロナウイルスの影響 [複数回答] (商店街アンケートより)



## 新型コロナ感染拡大で 7割の商店街が売上減少

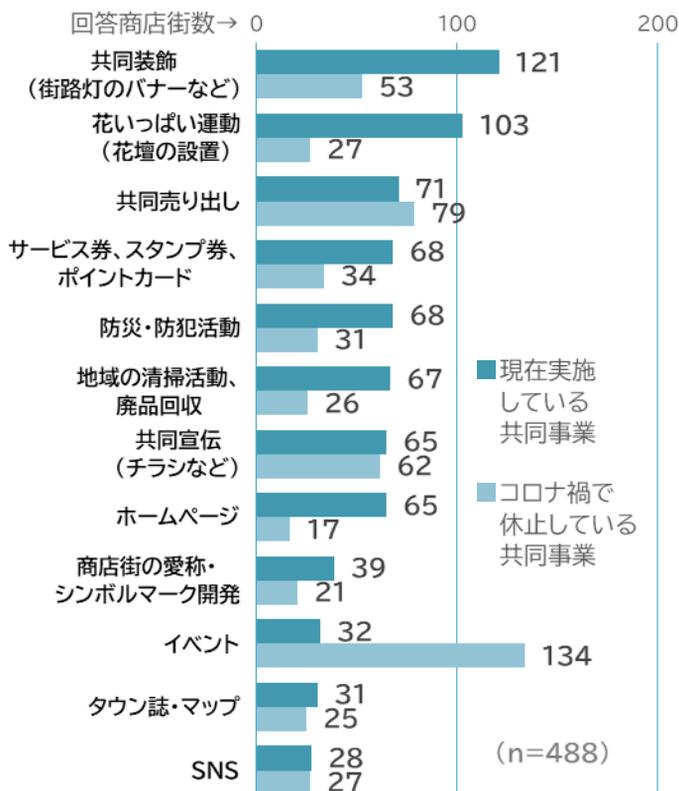
新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、埼玉県内の商店街にどのような影響をもたらしたのでしょうか。令和3年度に実施した『商店街経営実態調査』（以下、商店街アンケート）の結果によると、およそ7割の商店街で営業自粛などにより売上が減少し、また来街者も減少していました。特に影響はないと回答した商店街は全体の2%と少なく、多くの商店街で新型コロナウイルスの影響を受けたことがわかります。

それでは、コロナ禍において商店街共同事業（ソフト事業）はどうなったのでしょうか。

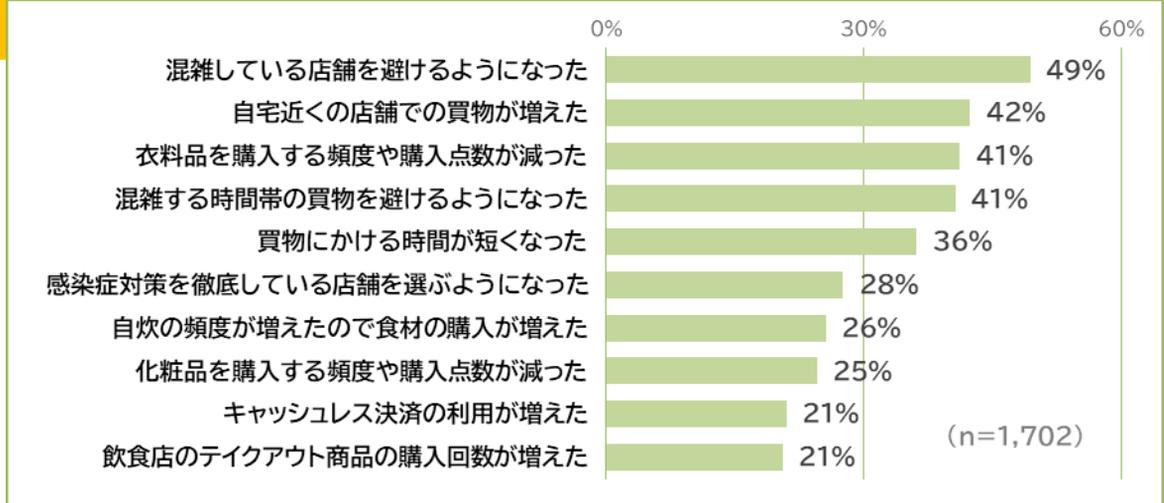
コロナ禍でも多くの商店街で継続して実施された事業は共同装飾や花いっぱい運動でした。共同売り出しを実施した商店街も比較的多いですが、休止した商店街も少なからずありました。

一方、多くの商店街で休止している共同事業はイベントの開催です。感染対策の観点から、人が密になりやすいイベントの開催を見送った商店街が多かったようです。

## コロナ禍での共同事業 [複数回答] (商店街アンケートより)



## 新型コロナ感染拡大による買物行動の変化 トップ10 [複数回答] (消費者アンケートより)

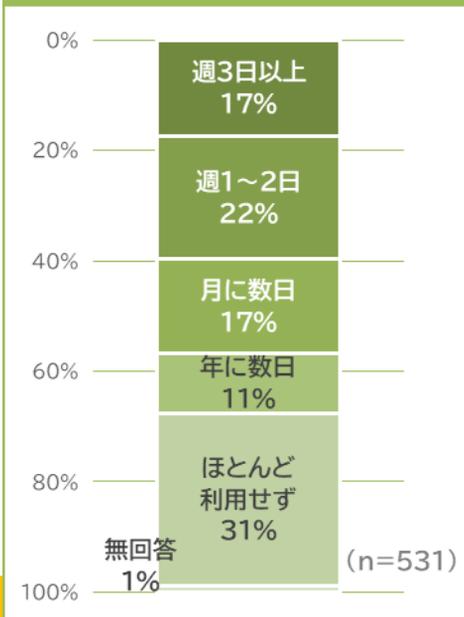


## 消費者は混雑を避けて買物、商店街の利用頻度が減った人も

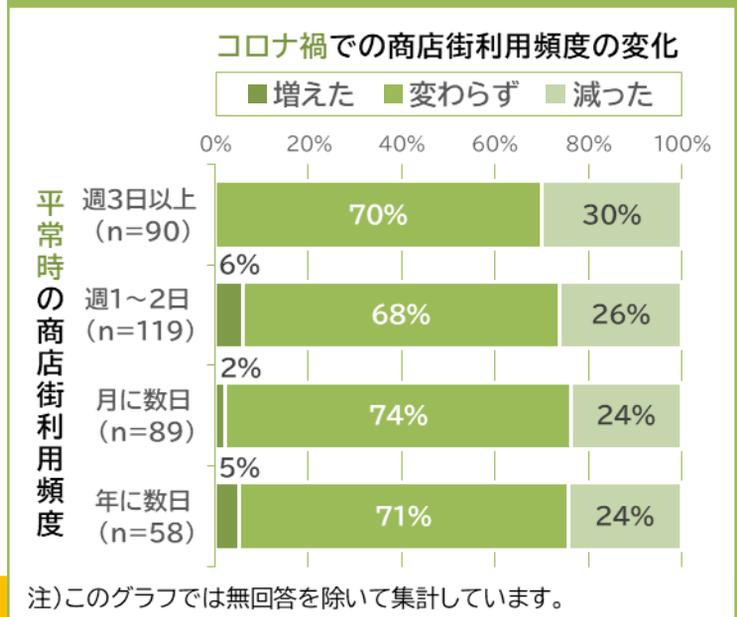
新型コロナウイルス感染症の感染拡大で、**県内消費者の買物行動**はどのように変化したのでしょうか。令和3年度に実施した『買物に関する県民アンケート』（以下、消費者アンケート）の結果を見ると、回答者のおよそ半数が**混雑している店舗を避けるようになった**と回答しています。店舗とともに**時間帯を選んで買物**をしている人も多いようです。**自宅近くの店舗での買物が増えた**、**衣料品を購入する頻度や購入点数が減った**とする回答も目立ちます。キャッシュレス決済の利用は、5人に1人が増えたと回答していました。

**商店街の利用頻度**はどう変化したのでしょうか。コロナ禍前は、近所に商店街があると回答した人の6割弱が月に数日以上商店街を利用していました。コロナ禍ではこのうち2~3割の人が商店街の利用を減らしていました。

### 平常時の商店街利用頻度 (消費者アンケートより)



### コロナ禍での商店街利用頻度の変化 (消費者アンケートより)



商店街の主な役割は、買物や飲食などの消費を行う場の提供です。しかし、県内消費者は防犯や福祉といった面での役割も商店街に期待しています。こうした消費者ニーズは見えにくいいため、商店街側が認識することは難しいのではないのでしょうか。ここでは、消費者と商店街のアンケート結果を見比べながら、双方の意識のギャップを見ていきます。

## 高齢者支援や食品ロス対策の実施など商店街への期待は高いが、商店街の取組は少数

商店街に期待する役割の中で、県内消費者と商店街のギャップが大きいものは**高齢者支援**です。消費者アンケートでは、一人暮らし高齢者への**宅配サービス**などの役割を求める回答が多く見られました。

社会貢献活動では、商店街に対して**食品ロス対策**や**県産品・地場産品の販売促進（地産地消）**を求める県内消費者が多い一方で、これらに取り組んでいる商店街は回答者全体の4%にとどまり、消費者の意識とのギャップが浮き彫りになりました。

### 買物の場を提供すること以外で商店街に期待する役割

#### ● 消費者アンケート [複数回答] (n=1,702)

1位	地域の賑わいの創出	45%
2位	まちの治安や防犯への寄与	31%
3位	一人暮らし高齢者への宅配サービスなどの役割	25%
9位	自治会活動など地域活動の担い手	15%

### 商店街が考える、商店街に期待されていると思う役割

#### ● 商店街アンケート [複数回答] (n=488)

1位	まちの治安や防犯への寄与	41%
2位	地域の賑わいの創出	37%
3位	自治会活動など地域活動の担い手	30%
7位	一人暮らし高齢者への宅配サービスなどの役割	11%

注) 商店街アンケートのランキングにおいて「地域住民への身近な購買機会の提供」は除いています。

### 商店街に期待している社会貢献活動

#### ● 消費者アンケート [複数回答] (n=1,702)

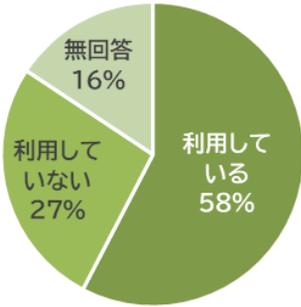
1位	食品ロス(フードロス)対策	40%
2位	県産品や地場産品の販売促進(地産地消)	33%
3位	高齢者見守りへの協力	32%
6位	地域清掃活動	28%
9位	受動喫煙の防止	20%

### 社会貢献活動として取り組んでいるもの

#### ● 商店街アンケート [複数回答] (n=488)

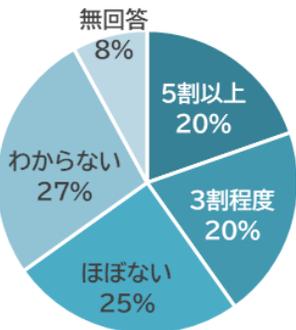
1位	地域清掃活動	24%
2位	高齢者見守りへの協力	10%
3位	受動喫煙の防止	8%
6位	県産品や地場産品の販売促進(地産地消)	4%
6位	食品ロス(フードロス)対策	4%

日常の買物や飲食での  
キャッシュレス決済利用状況  
(消費者アンケートより)



(n=1,702)

キャッシュレス決済を  
導入している店舗の割合  
(商店街アンケートより)



(n=488)

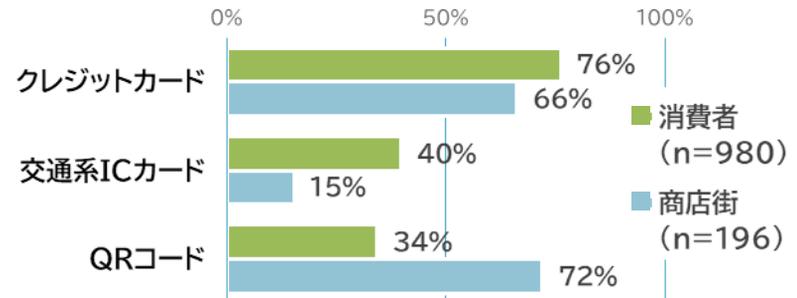
キャッシュレス決済でもギャップ  
消費者の6割が利用するも商店街では足踏み

キャッシュレス決済でも県内消費者と商店街の間にギャップが見られます。回答者のおよそ6割がキャッシュレス決済を利用していますが、キャッシュレス決済を導入している店舗が5割以上あると回答した商店街は20%にとどまります。

また、キャッシュレス決済の種類では、商店街でQRコード決済の導入が進む一方、利用者の多い交通系ICカード決済の導入は少なくなっています。公共交通機関利用者が多く来街する商店街では、交通系ICカード決済の導入についても検討する価値がありそうです。

利用(導入)しているキャッシュレス決済の種類

[複数回答] (消費者アンケートおよび商店街アンケートより)



注)消費者アンケートで上位3つの決済種類を掲載しています。

商店街見聞録 1

昔ながらの菓子製造販売の街を受け継ぐ

▶▶▶川越菓子屋横丁会 (川越市)

小江戸川越の表通りを横に入ると、昔ながらの菓子屋が軒を連ねる川越菓子屋横丁会があります。古くは菓子製造卸売の事業者が集うエリアでしたが、現在は小売が中心で、多くの観光客が訪れます。

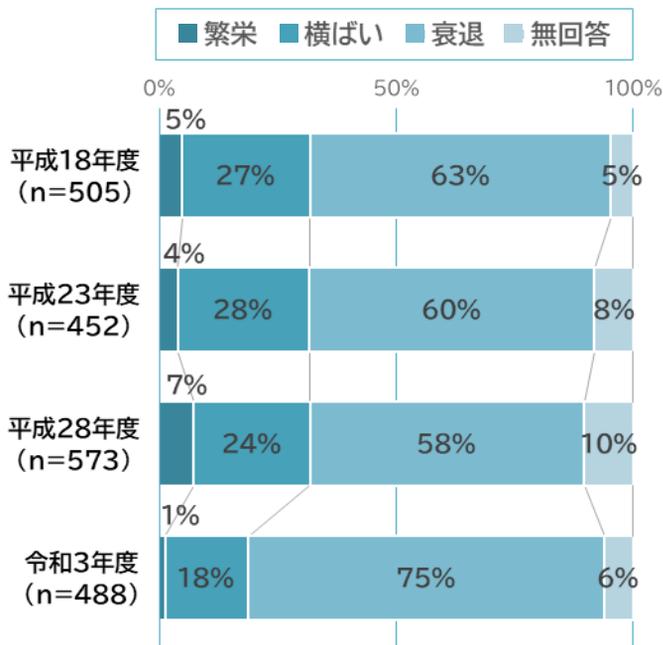
川越菓子屋横丁会の会長を務める久保田氏は手作り餡の製造販売「玉力製菓」の4代目。大正時代から続く店舗ですが、時代の変化に合わせてキャッシュレス決済(QRコード決済)を導入しました。周辺では未だ未導入の店舗も多いですが、埼玉県がキャッシュレス決済端末の導入費用を支援している\*ことに加え、川越市でもキャッシュレス決済促進のキャンペーンを展開しており\*、今後の増加が期待されます。

※令和4年1月時点



今回の調査では、県内商店街の景況感が5年前に比べて悪化しました。新型コロナウイルス感染症の影響もさることながら、後継者不足や経営不振といった従来からの課題がより深刻になってきている様子がうかがえます。ここでは、調査の結果を踏まえて、5年先、10年先を見据えた県内商店街のあり方を考えます。

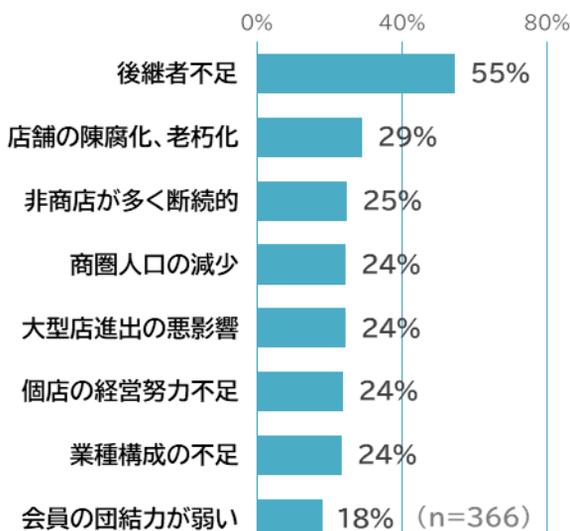
### 商店街の景況感 (商店街アンケートより)



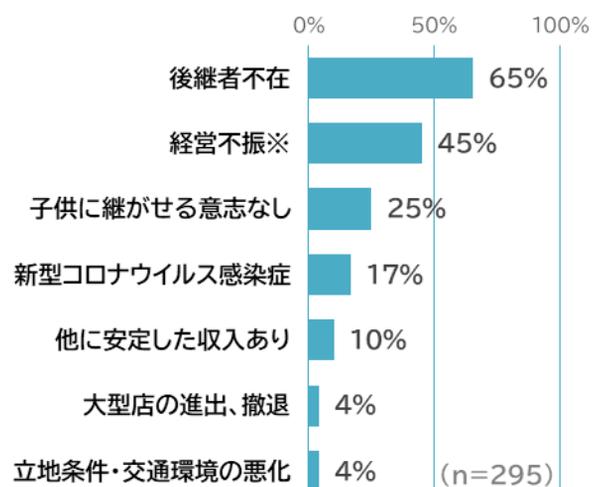
### 景況感が急速に悪化、 後継者不足が深刻

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3年度の調査では、5年前に比べて商店街の景況感が悪化しました。商店街アンケート結果によると、衰退と感じている商店街の割合が5年前の58%から75%に増えています。ただし、商店街衰退の原因を見ると、後継者不足を訴える商店街が過半数と圧倒的に多い状況にあります。空き店舗が生じた原因を見ても、新型コロナウイルスの影響よりも後継者不在を挙げる商店街が圧倒的に多いことがわかります。

### 商店街衰退の原因 [複数回答] (商店街アンケートより)

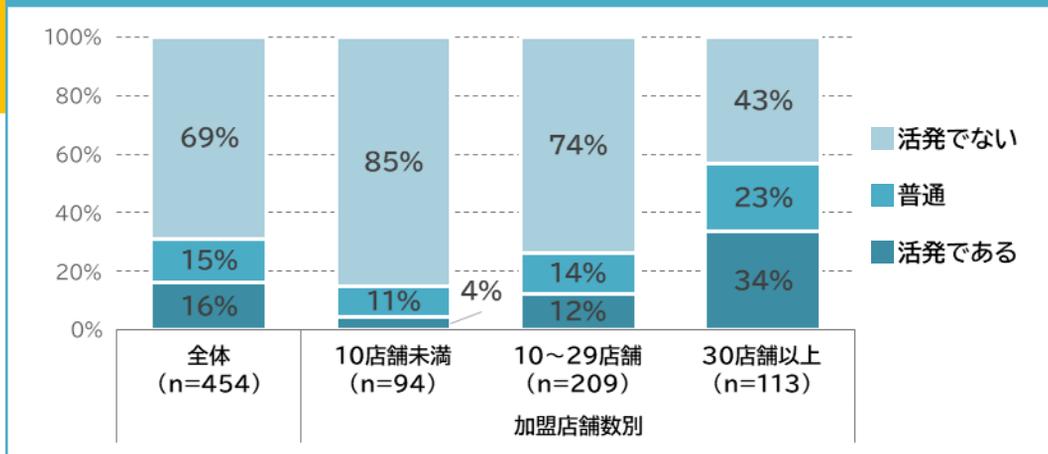


### 空き店舗(廃業)の原因 [複数回答] (商店街アンケートより)



※「経営不振」に新型コロナの影響は含まれません。

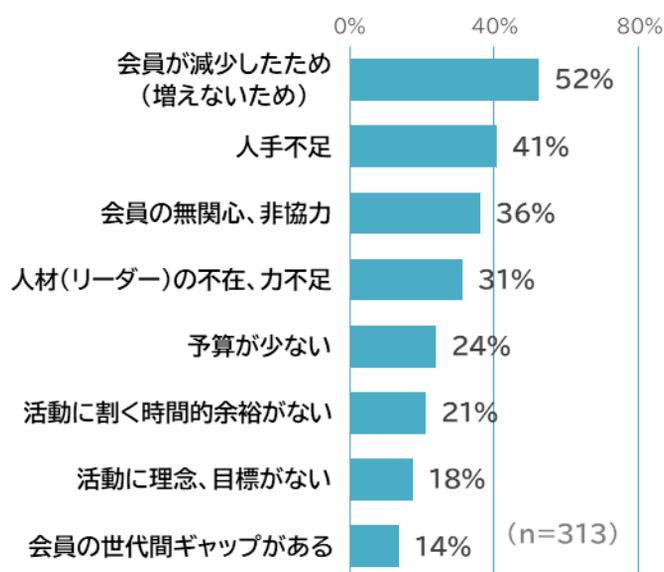
## 加盟店舗数別にみる商店街の活動状況 [複数回答] (商店街アンケートより)



## 人手不足に悩む商店街は 連携による活動も視野に

商店街組織の活動状況では、加盟店舗数が多い組織ほど活発に活動している傾向が見られました。一方、活動が活発でない主な理由は会員数の減少、次いで人手不足となっています。加盟店舗数が少なく商店街活動の人手不足が常態化している場合、近隣商店街等と連携した活動や、商店街連合会のような連携組織での活動を軸に据えることもひとつの手段です。他の商店街とともに活動する中で、5年先、10年先を見据えたそれぞれの商店街組織の将来像を描いてみてはいかがでしょうか。

## 商店街活動が活発でない理由 [複数回答] (商店街アンケートより)



## 商店街見聞録 2



### ▲谷古宇会長

おもちゃ屋経営の傍ら、数々のイベントの企画調整に奔走するアイデアマン！



## 人と人をつなぎ活力ある商店街を目指す

### ▶▶▶アコス通り商店会 (草加市)

平成4年に草加駅前再開発の対象外となった路面店で設立された商店会です。加盟店舗数は14店と少ないですが、草加市商店連合事業協同組合に積極的に参画するなどして商店街活動を展開しています。コロナ禍前は駅前大型店などとも連携して、商店街の集客につながるイベントを毎年開催していました。

今後も加盟店の販売促進につながる魅力ある商店街活動が継続できるよう、近隣商店会の合併や会長の世代交代を検討しているとのこと。国内外に幅広いネットワークがある谷古宇会長は「人と人をつないで今後の草加市の街づくり活動を展開したい」と考えながら、日々の商店街活動を展開しています。

## ● 令和3年度（2021年度）に実施した調査 ●

### (1) 商店街調査

- アンケート『令和3年度 埼玉県 商店街経営実態調査』

調査方法	紙の調査票の郵送による配布と回収(自記式)
調査対象	埼玉県内商店街のうち単体組織738商店街
発送日	令和3年8月25日(水)
締切日	令和3年9月13日(月) [令和3年10月8日(金)到着分まで有効]
配布数	738商店街
有効回収数	488商店街(回収率66.1%)
- 商店街訪問(面談)調査  
県内50の商店街組織のみなさま
- 個別商店訪問(面談)調査  
県内50の個別商店のみなさま
- 来街者面談調査  
県内商店街来訪者 220人

### (2) 消費者調査

- アンケート『令和3年度 買物に関する県民アンケート』

調査方法	紙の調査票の郵送による配布、 郵送およびWeb回答システムによる回収(自記式)
調査対象	埼玉県内在住の満18歳以上の方(標本調査)
標本抽出方法	住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
発送日	令和3年9月30日(木)
締切日	令和3年10月18日(月) [令和3年10月25日(月)到着分まで有効]
配布数	3,000人
有効回収数	1,702人(回収率56.7%)

**調査に御協力くださったみなさまにこの場を借りて御礼申し上げます。**

## 令和3年度 埼玉県商店街経営実態調査報告書 概要版 コロナ禍の商店街の経営実態

令和4年3月 発行

- 【発行】 埼玉県産業労働部商業・サービス産業支援課  
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号  
TEL 048 (830) 3761  
URL <https://www.pref.saitama.lg.jp/shigoto/sangyo/syougyouservice/index.html>
- 【調査業務】 株式会社サーベイリサーチセンター